

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200321		
法人名	(株) パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里佐志		
所在地	佐賀県唐津市浦5470番地1		
自己評価作成日	平成30年4月17日	評価結果市町村受理日	平成30年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自施設では生ものをお食事で出していない。以前より利用者様の多くが食事で生もの(刺身、お寿司など)が食べたいというご意見があがっておりましたので食への楽しみを増やすために年間の企画で外食を取り入れるようにしました。その日だけは自分が食べたいものを選んで好きなだけ食べられてと喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

唐津市の山あいの町に、自然の木々や田んぼに囲まれてホームは設立されている。ホームに入ると、入居者の自然な笑顔が出迎えてくれる、優しい雰囲気のあるホームである。共有のリビングには東側に、大きな窓を配置し、自然の移ろいや外部の人が出入りする様子が伺え、地域の方々へも開放的な作りになっている。入居者、一人ひとりに丁寧に接し、本人の希望を聞きながら、外出や食事を楽しむ支援を実践しており、入居者の笑顔を大切にしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社の理念と新しく介護の心得五項目を毎日の朝礼で唱和して職員が全利用者様の安心で安全な生活支援を共有と実践に繋げています	共有部分の壁に、介護の心得を掲示し、社の理念と合わせて、毎日の朝礼時に唱和している。理念は、新人職員の教育や職員の支援の指針となり、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	炎天下の時期に近隣の農作業の方には冷たいお茶を利用者様と届けたり散歩で出会う方には積極的に利用者様と話しかけていき日々小さな交流が大きく実を結ぶと地域交流をしています	事業所には、地域からの入居者も数名おられ、外出時に道で会うと、気軽に声をかけもらえる関係を築いている。また、地区の方の介護相談を受けたり、ボランティアを受け入れ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で母親の認知症を自宅介護していると息子様が相談に来られ悩みを聞いてあげたり接し方についてのアドバイスをして今では認知症のご本人様がよく散歩で遊びに来られるようになりました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月一度偶数月で会議を行って意見交換しています。今利用者様の家族参加が少ない現状にありますが報告に対しご意見ご感想頂いた内容を支援に活かしています	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、区長や民生委員、行政の担当者を集めて、入居者の状況やヒヤリハット、行事などの報告を行っている。しかし、家族の参加が少なく、また、議事録の整備が整っていない。	議事録の整備をすることで、会議実施の確認や、家族への報告、職員への周知が容易になる。今後、家族が参加しやすい会議開催日程の工夫や議事録の整備について期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは緊密に連絡を取っています何かあればその都度相談もして報告も欠かさず行っています	市の担当者とは、主に電話で連絡を取っている。制度の改正など、その都度相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置と研修や勉強会で復習し幅広い身体拘束の分野に対し全職員が熟知させ徹底した身体拘束をしないケアに努めています	現在、身体拘束をしている方はいないが、身体拘束のマニュアルを整備し、「言葉による行動制限」や「内服に頼らないケア」等の実践に努め、研修会や勉強を通して、職員が自分の行動を振り返る機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの設置と研修や勉強会で復習し幅広い身体拘束の分野に対し全職員が熟知させ徹底した高齢者虐待防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会にて学んではいますが実際に制度の依頼や活用支援には経験がありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日に契約書を交わしますが前頁に説明も入れながら理解と納得の確認を行い最後に署名捺印を頂いています契約書内に後で疑問におまわることがあられた際も必ずその都度対応をしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご意見などは日々の接する中で聞き出して反映させご家族様に関しては会議への参加時や面会の際に必ず話をする時間を作り本音をぶつけて下さっていますのでそれを反映させています	職員は、日々の暮らしの中で入居者の希望を把握するように心掛けている。家族の面会時には、居室にお茶を運び、親しみやすく話しやすい雰囲気作りを心掛けている。聞き取った意見や要望は運営に反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おもに職員会議、ミーティング、個人面談、で出てくる意見や提案が中心ですが必ず答えを出して又職員が本当に働き甲斐が持てる職場作りに反映させています	職員の意見は、会議を通して運営に反映させる仕組みを作っているが、自分の意見を言い出せない職員に対しては、個人面談を行って意見を聞き、管理者が代弁して意見を提案したりすることで、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の自己評価をしてもらい短期と長期の目標を立てさせて実現に結びつくよう環境を整えて来ています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の際は必ず職員一丸となってその人のサポートも行い処遇改善加算の適用を活かしてチャレンジ精神を鍛え意欲向上と自信につながり取り組みをして来ています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修に参加することで多くの同業者の方との出会い交流を通じてとてもサービスの質の向上に活かされた取り組みが形となり徐々に見えて来ています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様から個人情報を提供して頂くことでその人の生活に寄り添い関わりをもつことで互いの信頼が深まり個人の悩みや不安に感じている事など要望はしっかりと捉え安心した生活の確保に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様にどんな小さなことでも遠慮せず打ち明けてもらえるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が希望する生活プランを第一に考えて個人にあったサービス提供に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の職歴、趣味、得意とする分野に目を向け個別での支援に力を入れています出来られない危険だの考えをなくしその人を引き出す支援で関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は利用者様とのふれあい空間作りに努め月1で担当職員からお便りを発送してより身近に互いが感じられるよう支え愛の関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人関係の方々にも気軽に遊びに来ていただいております馴染みの場所には車両ドライブにて足を運び思い出がいつまでも途切れないよう支援に努めています	地元の人が毎日歩いて面会に来たり、ホームの支援で、自宅に衣替えの衣類を取りに行ったり、地域の美容院との関係を続け、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での好き嫌いはあられていますが職員が間に入ることで関わり思いやり支え愛が日常生活の中で感じて頂けるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際は本人や家族様から訪問の承諾をとりこれまでと変わらない相談と支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意向をほぼ伝えられる利用者様が全体の6割おられます難しい方に関しては職員が日々の関わりの中で感じくみ取ってそれを充実させた生活の支えに努めています	外出や買い物に行きたいなど、一人ひとりの希望を聞き、支援の中に取り入れている。また、意向が把握出来ない入居者は、日頃の様子などから、希望をくみ取り日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約書を交わす際に家族や本人から事前に聞き取りを行い入居後も報告されてなかったことに関してのお話をして頂いています全体の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人差が多くあられる部分なので気づきや見落としがないように職員間の連携で現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の経過や病院記録とモニタリングで現状に変化があれば全体で話し合い瞬時に個人が生かされる介護計画書を作成しそれに基づいた支援に努めている	3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、必要に応じてプラン変更を行っている。担当者会議には本人も参加し、本人、家族の要望を聞き取り、介護計画を作成している。参加できない家族には、面会時等に説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記載には誰が見ても理解し現状が見える文面を心がけていますそうすることで職員間の情報共有が本人を活かす計画書の見直しに繋がっています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズも本人や家族と職員がしっかりと向きあってより良い支援に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、子供クラブ、消防団との交流の場への行事参加や場を作る企画を行ない地域資源を活用した暮らしの支援に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望かかりつけ医との受診と往診で対応し医師との連絡や相談で安心した医療治療を受けて頂いています	協力医療機関とは往診、受診の連携を取り、24時間対応できる体制を整えている。別の病院のかかりつけ医を受診する場合は、ホームの職員が受診支援を行い、協力医とかかりつけ医が連携出来る体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理、状態把握に努め個人の異変に適切な対応が出来るよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は小まめな面会で本人の状態把握と病院関係者との病状確認や身体機能、認知低下を防ぐための早期退院に努め関係を築いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や入居契約時に重度化や終末期ケアについても自施設が出来る支援の説明をしています早い段階で本人と家族の意向を聞き取り出来る限りの支援に取り組んでいます	入居時に、終末期の看取りについては行っていないことを説明している。重度化した場合の対応については、家族等が望まれる形で、できるだけ対応するが、出来ない場合は、医師の判断により入院を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変での初期対応や事故時のけがの応急処置については習得できるまで研修や講習への参加と職員同士での練習を重ね実践での感覚をつかませています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルあり冷静に行動できる訓練と避難体制(連絡網)災害で異なる避難経路と集合場所の再確認で利用者を安全に避難させる地域との協力体制は築いてますが備蓄の確保が今だ出来てない(本部へ何度も報告している事)	消防署立ち合いの訓練や夜間想定訓練も含め、年5回程度避難訓練を実施している。また、非常時の協力者として、消防団や民生委員との協力体制を整えているが、訓練時に、地域の方の参加はあっていない。	防災等のマニュアルは、整理して職員が見やすいところに配置し、訓練時における地域住民の参加について、協力体制を築いていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシー保護については厳しく指導しています自分自身(職員)に相手をおきかえてめうえの方への言葉遣いはもちろんのこと通じ合える表現も大事にしている	勉強会などで、個人を尊重しプライバシーを守ることの大切さを学ぶ機会を設けている。入居者への言葉のかけ方などで、管理者が気づいたときはその都度注意し、よりよいケアの向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い、希望が現実の形となり個人が自分自身で決定できる一緒に寄り添って考えるの支援をしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の職務は絶対に優先しない利用者が自分のペースでその日一日希望する過ごし方を朝に確認して充実した時間の過ごし方を支援してます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、女性だけの入居者ですので日々おしゃれや身だしなみには利用者個人の好みで最近では化粧とネイルの希望が多くあり支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備と片付けは利用者と職員がよく一緒にしています食の楽しみはリクエストを取り入れ献立をたてたりします	入居者と一緒に食材を見て献立を考えたり、調理の手伝いが出来る入居者には、食材を混ぜたり、味付けを手伝ってもらったりして、その人が出来ることを行ってもらっている。外食なども取り入れ、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人差がありますが時間制限をせずその人にあった栄養摂取と水分確保で支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居時、口腔内の異状の際に本人と家族の承諾をとって月に4回訪問歯科でケアを受けられてる方がいます毎食後のケアについては本人が出来る範囲の事を見守りした後で職員が口腔内の確認と要するケアに努めます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンをつかみオムツコストをかけない失敗での気落ちにならない排泄の自立を支援している	排泄のチェック表で排泄パターンを把握し、声掛け等で排泄の自立を促す取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の予防には水分摂取と適度な運動を行い自分での排泄が出来られない方に関しては主治医へ報告相談にて下剤内服で便秘解消に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬季週2夏季週3で入浴回数を決めてはいますが臨機応変で時間帯や順番など毎回個人に確認して楽しむ入浴支援に対応しています	職員2名体制で入浴介助をしたり、入浴を好まれない方に対しては、散歩などをしながら、自然と浴室に誘ったりと、入浴の順番や時間帯を変更しながら、入浴を楽しめる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠休息に必要な場所の環境作り特に人的環境を整えて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬管理、効能や副作用に関することは処方箋で確認し病状の変化を見落とさず医師、薬剤師に報告相談する事で指示調整をした支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活と職歴を生かしやりがいや自信に繋がる常に気分転換を取り入れた支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候によりますが散歩、ドライブは日常的に行っていて希望に添い時には地域や家族の協力もえて外出支援している	外に出る機会は多く、入居者の希望に合わせて、季節の花を見るドライブや、100円ショップに出かけたりと、外出や買い物の支援を行っている。また、家族だけの外出に不安がある家族に対しては、外出先で待ち合わせして、家族の介護負担を軽減する工夫をしながら、外出を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼお金の管理は家族がされていて所持金(お小遣い程度)を持たれてる方が3名おられます日帰り旅行や個人が必要な買い物希望の際には事前に全利用者の家族の承諾取り本人へ手渡してもらい所持と使う支援に努めてます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が個人に携帯を持たせられてる方3名おられます施設の一般電話機や携帯も活用してもらいまた手紙(代筆)でのやりとりも支援してます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の共有空間は自然と人工光の調整、季節的な自然との調和を生かし誰もが居心地良く過ごせる工夫をしています	共有の空間は、清潔に保たれている。居間は季節の装飾が施され、部屋の中からでも、季節の移り変わりを感じる事が出来るように工夫されている。部屋の隅には、畳の間が設置され、自宅の居間で寝転んでいる気分にもなれ、誰もが居心地よく過ごせる空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル椅子の位置については個人が自分の場所と決めつけてる方もおられますが共有スペースをお互いが自由に使える工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の状態に応じて居室移動があることを個人や家族に事前承諾取り持ち込まれた馴染みの家具や飾りの配置で使いやすさと安全面に考慮した対応をしています	居室は、入居者の心身の状況に合わせて、ベッドや布団を利用出来るようにしている。また、入居者の馴染みの物や好みの写真、絵画、仏像、ソファーなどを自由に持ち込むことができ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のできないわからないで困惑や戸惑いをつくられないように建物内に限らず自立した支援への取り組みをしている		